

「新しい日本の ODA を語る会」の今後の進め方

1. 第一回の議論

(1) 主要な論点

第一回の議論では、各界の視点から日本の ODA についての現状認識、課題が提示された。特に集中したのは、ODA の理念・戦略性の明確化、国民の理解と参加の促進、援助現場への対応、実施体制・制度の改革の必要性、等であった。

(2) 議論の方向性

第一回の議論で印象的だったのは、ODA の現場と国民各層とのギャップ (**Missing Link**) の存在の大きさであった。また ODA は日本という国のあり方を問う一方で、途上国の現実の問題に日々直面するという非常に特殊な事業であるということであった。「新しい日本の ODA」構築のためには、これらの問題意識を踏まえつつ、常に具体的な政策 (アクション) に結びつくような議論が必要であると痛感した。

その意味で、以下の 3 点を共通の問題意識として、今後の議論を展開させることにしたい。

(参考: 第一回の議論に基づく現状認識・課題のマッピング表)

何のための ODA か

その観点から何をすべきか

改革のためのアクション、チャンネルは何か

2. 今後の進め方(*)

(1) 2007 年前半まで (マニフェスト集中討論期)

各界から「私の ODA マニフェスト」、「私の ODA 改革提言」等の話題提供を元に討論。基本的には、上記 ~ の内容をカバーしつつ深化させて、事務局にて論点整理・イシューの特定化。

またホットイシューがあれば、随時追加。(外務省改革、新 JICA 法、ODA 予算等)

(2) 2007 年後半 (特定イシュー討論期)

特に詳細な議論が必要なイシュー、さらにはこれまで提示されなかったが重要なイシュー等について集中討論。(対アフリカ支援戦略、調査研究機能の強化等)

(3) 2008 年初頭 (論点整理・提言期)

これまでの議論を整理しつつ、サミット、TICAD 等を意識しつつ、コンセンサスを得た部分等を中心に事務局の責任で取り纏める。

以上

(*) あくまでも現時点の事務局見解であり、今後の議論の展開等をふまえて柔軟に対応していく。